

1. 気候変動による損失と被害実態調査(進捗報告)

■調査地/インドネシア 中部ジャワ州プカロンガン市 バンドウンガン村

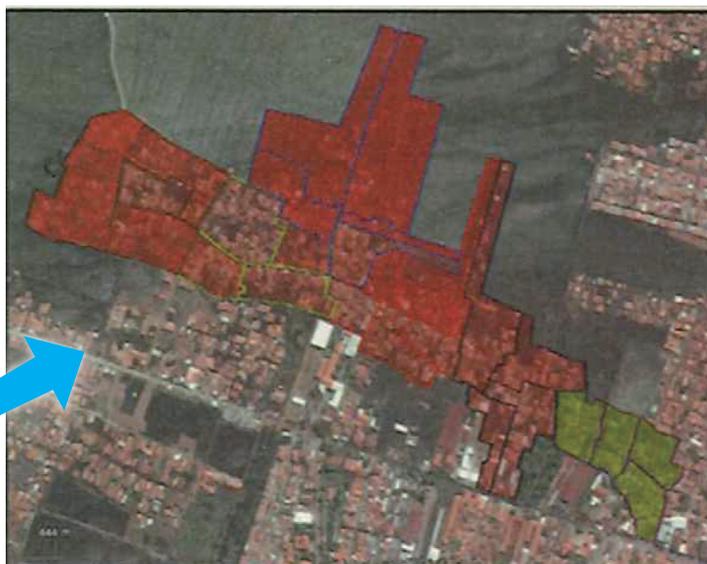
■広さ/172.58 km²

■構成/6地区(27コミュニティ)

■世帯数/1,969世帯

■調査対象/3,398人(生産年齢男女)

- ・住宅地の86%が浸水域。※貧困層地域
- ・住宅地の7%、人口の5.8%(約100世帯)が深刻な浸水域に住む。
- ・平均の浸水の深さ:20-30 cm。住宅地における最大1mの床上浸水も経験。
- ・人口の40%が皮膚炎に苦しむ。デングも増加。栄養失調。

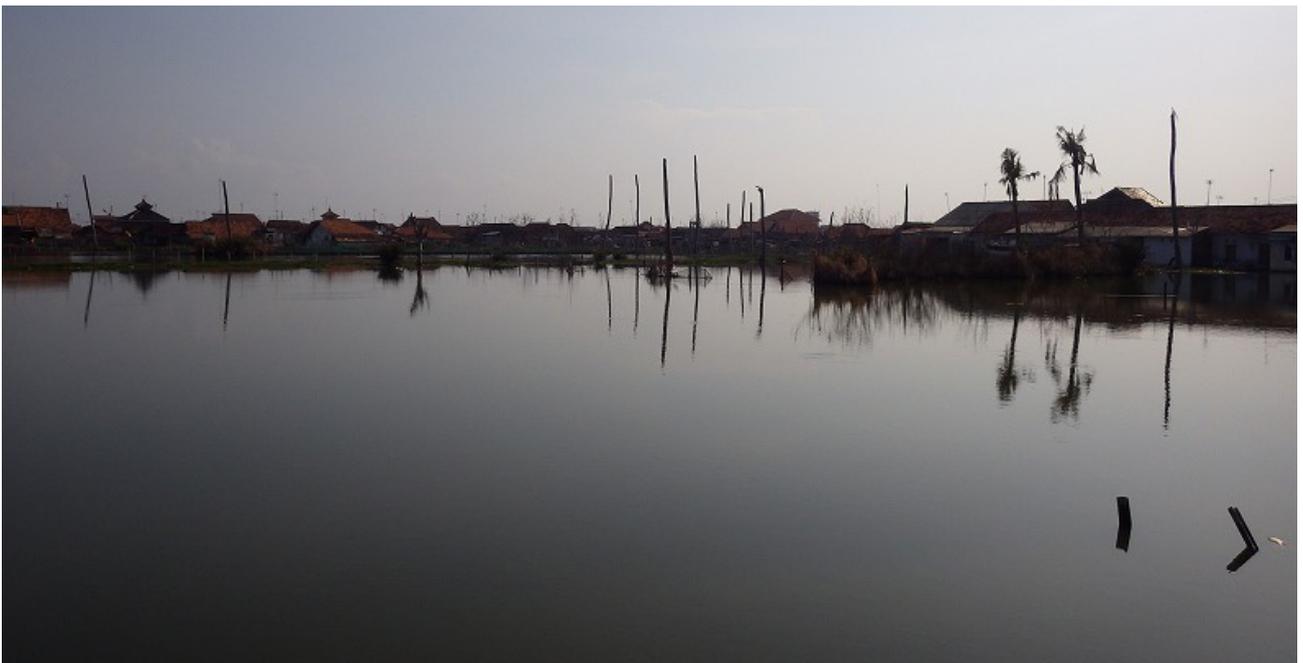


インドネシア ジャワ島 プカロンガン市
バンドウンガン村





2006年頃まで水田、ジャスミン畑だった農地約100ヘクタールは水深1～1.5mの海水に浸かる。





家屋の床は2～3年おきに50センチほど盛土。
井戸は海水が混入して使用できない。



生活道路の盛土作業



家のトイレ、公衆トイレは汚水が溢れるため使用できない。



川、養殖池がトイレがわり。
ゴミと汚水が屋内や道路に漂う。



豪雨と大潮が重なると最大1mまで水かさ上がることも。水は一週間ほどひかない。



生計手段を失った農家の女性はバティックの染色等に従事。
→汚染が流される。

住民生活への影響

- ・ 収入源、財産の喪失
- ・ 職業／生計手段の変更(農民→養殖業、工場労働者等)
- ・ 大幅な支出増加
(家の改修、バイクの修理、新しい生計手段のための投資、防災用品等購入費用)
- ・ 文化、宗教、地域社会の影響
(集まる場所、子供の遊び場等の喪失)
- ・ 健康被害
(皮膚炎、デング、栄養失調等)
- ・ 環境の変化へのストレス

移転の可能性、課題

住民の声

積極的な移転希望

- ・実際に移転している
- ・できることなら移住したい

消極的な移転希望

- ・移転先の探し方がわからない
- ・新しい家の購入・賃貸費用がない

移転に否定

- ・親族、隣人と離れて暮らすことへの不安
- ・移転先での収入源の確保への不安
- ・現在の状況には大変困っているが、隣人も同じ状況なので仕方がない

行政

浸水地の土地利用転換は検討なし。

行政の関わる移転の可能性は難しい。予算確保が困難。

そもそも浸水の原因究明も実態把握もしていない。

2. 気候変動に関するワークショップ

■場所／インドネシア 中部ジャワ州プカロンガン市 バンドウンガン村

■参加者／コミュニティリーダー26名

■内容／

- ① 影響の共有
- ② すでに住民、行政が実施している適応対策
- ③ 今後必要だと思われる研修、施策等



3. 養殖業研修

- 場所／プカロンガン大学
- 参加者／沿岸部元農民
- 内容／沿岸部の参加型水質調査、
環境に適した魚、養殖方法について



4. マングローブガイドトレーニング

- 日時／2017年3月27日
- 場所／Pekalongan Mangrove Center(PMC)
- 参加者／26名
- 講師／スマラン市タパックコミュニティグループ(PLENJAK)
- 内容／(1)ツーリズム課からの説明
(2)ガイドとファシリテーションの方法
- 課題／マングローブの担当課であるツーリズム課自体が問題に向き合おうとしていない。コミュニティグループにトレーニングを実施すること自体は歓迎しているので、今後、キャパシティビルディングを強化。

5. マングローブ植林

- 苗木植林／40,000本
- 植林地／ジュルックサリ村
- 植林時期／8月、9月
- 関係機関・参加者／プカロンガン県環境局、教育局、産業局、保険局、沿岸・漁業局、社会局、ジュルックサリ地域行政、上水供給社、防災局

今後の活動(2017年後半～2018年度)

- 調査の最終化、分析、評価
- パイロットコミュニティ(2ヶ所)における支援活動
 - ・アクションプラン策定
 - ・適応対策の共有
 - ・浸水問題に関する防災・衛生教育
- 元農民向け養殖トレーニング(参加型水質検査含む)
- 2018年度の植林計画の策定

<2018年度>

- 浸水問題に関する防災・衛生教育
 - アクションプラン実施(例:参加型集落内水質調査、適応対策の実践、収入向上研修、農作物栽培研修等)
-